

忘れない…ひたち、みちのく  
うきはひつしー！



■思いもかけない一日。運命の日——地震と津波、そして原発事故…その日を境に日本は大きく変わってしまった。

たくさんさんの犠牲、たくさんさんの無理難題…次から次に襲い掛かる。しかし、日本は、必ず再生する。そう信じる。

石岡で必死に立ち上がろうとしているまちの人をみてみるとそう思える。また、被災地を訪れた方のお話を伺うにつけ、日本人の、特に東北人の素晴らしさを再認識させられる。あの日があったから、ここまで来れた、という日がいつか来る。それまで  
がんばろう日本！  
がんばろう石岡！

### わたしたちができること

■震災翌日から、情報センターは開館することにした。まちなかはまだライフラインが復旧

せずにいたが、それでも、電気が通ったので、情報をもとめたり、掲示したり、すこしでも出来ることは、して

いたかった。充電の切れた携帯電話を充電に来る方もいた。インターネットで親類の安否確認をする人もいた。ただ、生活必需品を求めて右往左往する中、いろんなことが不安で、話をするだけでも立ち寄りた人もいた。市役所からの災害情報が随時送られてくることになり、文字通り情報センターとしての役割も果たすことになった。また、週に一度放送しているFM放送局ラヂオつくばの定時番組「@タウンいしおか」の時間は、ラヂオつくばが災害情報局に認定され石岡でも聴けるようになったことから、内容を石岡の災害情報番組に変更し、最新情報を放送することを始めた。自分自身も被災地に

いることに変わりなく、不安な部分もあったが、まちなかのほつとする場所でありたいという気持ちで情報センターは開館し続けた。

### 被災地の声が聞こえる

■一週間ほど過ぎ、被災地に友人や知人、親類のある方、ご実家のある方、あるいは、仕事やボランティアで被災地を訪れている方に出会い、現地でのお話を聞く機会が増えていった。どなたのお話もとても興味深く、忘れたいものだった。そこで、災害情報とともに、ここで聞いたお話をより多くの方に聞いてもらいたいと考え、ラヂオつくばの番組に出演してもらった。お願いする私たちの気持ちと、自分が見たもの、聞いたもの、感じたものをすこしでも多くの人に知ってほしいという出演を承諾してくださった方々の真摯なお気持ちを作ることがミッションだった。以下にその内容を紹介する。

### 隊友会・小糸さん

ご兄弟とそのご家族の住む宮城県南三陸町を、震災直後に訪問。当時南三陸町は津波による壊滅的な被害で、一切のものががれきに化し、ご親戚一同は、高台にある唯一残った家屋で身を寄せ合って生活という状況。親類の住む地区の方へ救援物資を輸送された。当時、石岡でも、ガソリンや水などの生活物資などの不足が言われていた。被災地の厳しいお話を聞くうちに、ここには、もう何でももある。決して贅沢は言うまい、茨城と東北、どこか気持ちの通じるひとつの道、できることは何でもして助けていきたいと感じた第1回のインタビュー。

### 日本青年会議所茨城事務局と石岡青年会議所のみなさん

日本各地のJCからの救援のいわばターミナルとなったのは、茨城県水戸市。北茨城町、神栖町など茨城県内の被災地に救援物資の運搬、炊き出しなどの支援を行う一方、東北・福島への救援の一番近い拠点となるべく働いた。特に、原発事故直後のいわき市に乳幼児のおむつや衛生用品などの物資をメンバー自ら届けることをした。またツイッターなどのイ

ンターネットツールを使い安否情報・災害情報の拡散も続けた。今回のような想定外の広域の災害が発生した時、一切の情報を得られなくなり人は不安に陥る。初動の情報管理をどうするか？いろいろな人と知恵を出し合っていきたいと、語った。

### さん

原発事故後の福島に災害派遣中の一時帰宅の折に来館。水戸のご自宅も今回の地震により大きな被害を受けられた。原発に近い強制退避地域や、自主退避地域で放射線量測定の実地作業を行う。地震・津波・原発と三重苦を負った福島県の人たちの苦しみを近くで見ってきた言葉は、どれ一つをとっても忘れることができない。ふるさとを離れてすこす被災地の人たちと、残された家畜たち。日本各地から派遣されて出会った災害派遣の仲間たち。遠く九州や四国から派遣されている警察官や消防士、自衛官も多い。滞在を重ねる中で、すっかり福島の人たちと顔なじみになっていったエピソードを聞きながら、Jさんのひとがらを表すインタビューとなった。日本人って素晴らしいよ。この国に生まれたことは誇らしいよ。

## 石岡第一病院 歯科衛生士 看護師のみなさん

■震災直後の宮城県女川にある、女川町立病院に災害派遣として滞在した経験を語る。第一病院での震災直後の様子も大変興味深かった。女川での勤務は、看護師としてよりもむしろ入院施設内での救援を引き受ける。高層の病室への水や食料の運搬、患者さんの移動などを担当。地元の看護師や医師は震災当日から働きつづけており、自宅に帰ることもできないでいた。そういう状況の間人たち話し相手になりながら、最長八日の滞在日数を過ごした看護師もいた。若いスタッフたちは、もつと何かできないのか、被災地を訪れてみて自分の無力さを痛感していた。彼らの成長が日本の再生を支えてくれるのだと頼もしく思った。

## 石岡湖北水道企業団

三城さん 田村さん

■震災時のライフラインのひとつである水の事業を行う湖北水道を訪問し、断水の状況、復旧までの作業の詳しい内容などを伺う。石岡の断水の多くは、インフラの破損ではなく、あくまでも停電により発生したものであること。石岡の水は県から給水される割合がすく

## これからの支援

■これまでの、インタビューを通してわかったこと。

東北人の寡黙さ、慎み深さ、我慢強さ。決して多くを語らない。決して多くを求めない。決して嘆かない。

大丈夫ですか？平気ですか？もつと甘えてください。不満を言ってください。私は後回しでいいって言わないでください。

どんな状況の被災者だろうが、その人の苦痛は1分の1のはず。誰か任せにしているは、その1分の1はどこかに忘れ去られてしまいはしないか？ 福島を体験したJさんの言葉でもあり、わたしたちから、被災地へのメッセージはいつしか、「忘れない」ということに決めたのだった。いつも思おう。

福島、宮城、岩手、山形、青森、長野：もちろん茨城も昔からひとつの道でつながった、ひたち、みちのく

まちかどインターネット放送局

毎週土曜日午後1時

「スタジオ3116」生放送中！

FM放送局ラヂオつくば

毎週水曜日午後7時30分

「@タウンいしおか」放送中

取材を希望するイベントやまちなかの面白い情報を教えてください。

## いしおか お店めぐり 20 ◆もとはし具服店



取材を始めた。おもてなしの小物には、さりげなく和布が使われていて、話のきっかけを演出してくれます。話が家紋のことに

なり、「家紋は貴族、武家しか使っていないけれど、明治に入ります。話のきっかけを演出して

入り苗字が許されるようになると共に一般人にも定着。会社のロゴ・マークなども家紋から

きているのも多いんですよ。」さらに、家紋の本を広げて、「家紋のデザインは日本の伝統美

であるだけでなく、さまざまな道具、事象、信仰の対象が取り入れられ、それぞれに由来があり

り家の歴史と密接に関係している、日本人独自の美意識の結

晶の一つといえます。」と詳しく教えていただきました。専門

家の豊富な知識は、買う側に安心と信頼を与えてくれます。

ご主人が見せてくださった奄美大島の藍泥

コツを伺うと、「やはり、お店の人と会話することが一番ですね。」普段からのなげない会話がいざという時、本当に気に入ったものを手に入れる秘訣だそう。お店とお客さんのコミュニケーションを継続することで、最高のお買い物ができるのは、大型店での買い物との大きな違いです。また、奥様は、江戸千家、龍生派の茶花道をたしなまれ、普段から着物を着る機会が多いとのこと、着付けの相談にも気軽に乗ってくださるのも心強いですね。

昭和44年に開業されたのち、香丸商店街の歩道の整備に大変ご尽力を尽くされた時期があったそうです。歩行者を優先すると店の近くに駐車できない。駐車場がなければ、買い物客には不便で足が遠く。また、街の美観のために植栽すると、

さらに駐車場の出入りが不便：日常生活・買い物客・美観、この3つを共存させる方法をめぐり、日本全国の商店街を視察する

ため東奔西走した時代があったそうです。今は、植木の剪定が趣味というご主人、昨秋は、サンド市で柿を販売されたとか。お客さんとお話をする

きつかけはアイデア次第で広がりますね。



あらためて、ご主人に、買い物



きつかけはアイデア次第で広がりますね。

# まちの元気な人

落語の世界への案内人

坂口伸夫さん

まちかど寄席実行委員  
長として活躍中のかんた  
ろうこと坂口伸夫さんを  
紹介します。

一昨年の秋のこと、茨  
城空港開港記念のコンサ  
ートの広報のため情報セ  
ンターを訪れたのがきっかけ  
で、時々イベントに参加して  
くださるようになりました。ま  
ちかど音楽祭やインターネット  
放送など、今思えば、最初から  
しっかりと観察されていたよ  
うです(笑)。そして、ある時  
「ここで、落語やらない？」と  
お話がありました。私たちにと  
っては、まったく縁のない世界  
のことで、素人にできるものや  
ら…との思い。その反面、音楽  
祭だけではなく、地元の元気な  
中高年に気軽に集まってもら  
える恰好のイベントだな、と興  
味を持ちました。



族ぐるみのお付き合いがあり、  
進学して上京したのちも、その  
関係は続き柳昇一門と親交が  
あったのでした。5月のまちか  
ど寄席にご出演いただいた落  
語芸術協会理事の桃太郎師匠  
とも、立場は弟子と旧友の息子

という  
違いは  
あるも  
の、同  
じ年生  
まれ、し  
かも同

郷の親近感から、兄弟弟子のよ  
うな付き合いが始まったとい  
うわけです。その後、かんたろ  
うさんは、仕事に就き、桃太郎  
師匠も落語家の世界で出世し  
ていく中でも、二人の仲は続き  
ました。「落語やらない？」と  
いった申し出には、もし、自分  
が助っ人になれば、実現するか  
もしれないとの希望的予測が  
あったのかもしれない。しか  
し、どうしてここで寄席をやっ  
てみたいと思われたのか？改  
めてご本人に聞いてみました。  
すると「ひとつには、どのイベ  
ントをやるときも、理事長始め  
スタッフの行動が早い、という  
のでびつくりしました。よい、  
と思ったらずに実行するこ  
と。いいですね、やりましょ  
う！」と返事してもらって逆に

驚きました。それともうひとつ  
は、足りないものがあれば、な  
んとか手作りで作ってしまお  
う、というくらいに、ものづく  
りのノウハウに強い集団だと  
感じられたこと。この舞台は

「知恵を出す舞台」だと感じた  
んですよ。」というお答えでし  
た。その上「始めたからには、  
必ず定期的に継続して寄席を  
開きましょう、と言った私の気  
持ちにも、そうしましょう。偶  
数月の第4日曜日はまちかど  
寄席の日にしましょう、とすぐ  
に決めたことにも驚きました。」

さっそく手作りの高座を制作  
し、垂れ幕を作り、会議室を利  
用した即席寄席が完成。かんた  
ろうさんの「寄席とは本来こう  
いうものです。格式張らずに地  
声の聞こえる大きさでお客様  
と向き合うのでいいのです。」  
という言葉に励まされ、一年続  
けることができました。かんた  
ろうさん自身も、今まで住んで  
いる町というだけで深く関わ  
りをもつていなかったけれど、  
これからは、石岡に貢献するこ  
ういうことが人生の目標になっ  
てきた、とおっしゃいます。モ  
ットーは「人に笑いを」。寄席  
の準備にも、情報センターでの  
ボランティアにも、サービスピ  
神があふれています。

## いしおか お店めぐり 21 ◆たかのクリーニング

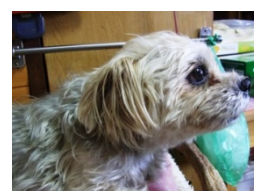
愛宕神社のある木之地の路  
地の真ん中に「しみぬき工房  
たかの」という看板が見えます。  
昔ながらのクリーニング屋さ  
んならしく、受付から奥までぎっ  
しりと、クリーニング済みの衣  
類が整列しています。愛犬まり  
ちゃんも同席してお話を伺い  
ました。ご主人がクリーニング  
屋さんを始められて今年でち  
ようど50年。着物の洗い張りが  
専門でしたが、洋服のクリーニ  
ングの需要が増えるというこ  
とを考え東京にクリーニング  
技術の習得に修行に行かれ、開  
業されたそうです。今でも、着  
物の洗い張りをするお店は限  
られているので、美容院やお寺  
さんに加え、冠婚葬祭、行事な  
どの高価な着物・衣類を持ち込  
まれる初めてのお客様がたく  
さんいます、とのこと。着物や  
フオーマル、大切な衣類はチェ  
ーン店ではなく、信頼のおける  
たかのさんを選ばれるお客さ  
んも多いでしょう。お店の自  
慢は、「どんなしみでも取る！」  
こと。特に奥様と若旦那さんは、  
損得を超えて、

しみ抜きに燃  
える熱い魂の  
持ち主だとか。



食べこぼしや  
飲み物などの  
しみが多いの  
ですか？とお  
聞きすると「原  
因がわかるう  
ちはまだまだ(笑)。とにかく  
ありとあらゆるしみがありま  
す。」衣類についてペンキまで  
落としたことがあるそうです。  
もちろん、こういう噂はロコミ  
となり、遠くからしみ抜きの持  
ち込みを依頼  
されるお客様  
もあとを絶た  
ないそうです。  
商売の秘訣は  
「ずばり実力」  
なのでしよう。

若旦那さんは、クリーニング  
業の傍ら、精密機械、特に時計  
のリペアの仕事もなさってい  
て、時計屋さんから修理品をも  
ちこまれ修理しているそうで  
す。この店に持ち込めば、愛着  
のあるものがすべて「生き返る」  
というのはいきすぎでしょう  
か。ご主人は、店がお休みの毎  
日曜に、小美玉や八郷の得意さ  
んに配達に出かけるため年中  
無休。淡々と話されるご主人の  
笑顔とおしゃべりを  
心待ちにしている方  
がたくさんいらっし  
やるのでしようね。



## 半年を振り返って

■大震災がすべての記憶を上書きしてしまったような慌ただしさの中二つの季節がすぎました。その中には、情報センターの大きなニュースも含まれています。

一月には、まちかど情報センターの指定管理者の公募があり、厳しい審査の結果、まちづくり市民会議が、継続して管理者に選定されました。これからの十年を振り返り、これからの情報センターの意義を創出するためのよい機会ともなりました。懸命に走り続けた十年から私たちが学んだものが多くあります。キャッチチャーとしてまちの声を受け止めること、試行錯誤の中から新しいアクションを生み出すこと。風と土という言葉に表してきた、地元の方と外部から来た人、新住民をつなぎ、新しい魅力を再発見すること、すべて今後の情報センターの行く道を示すものです。また、私たちに期待される一番大きいテーマは「石岡の情報」を伝えること」と再認識しました。特に、指定管理者のプレゼンテーションに際して、今後インターネット放送、FMラヂオつくばとの協働によるラジオ番組の放送というツールを使い、災害時に市民に役に立つ情報を伝える場所となりたいと考えたことが、幸か不幸か、現実のこととなり、準備しているまもなく動き始めました。これからも、公的な情報を伝達する場所として、また、被災地の声を聴き、ダイレクトにエールを送るためのコミュニケーションツールとして、できる限りよい放送作りに取り組みます。

二月―三月には、三年目になるいしおか雛めぐりの情景飾りを各所に制作し飾りつけました。毎年楽しみにしてくださる方も増え、こちらの意気込みも膨らみます。今年も「おかえりなさい かぐや姫」というタイトルの制作を行いました。五月には、ひと月延ばしになっていた、昔昔亭桃太郎師匠の独演会



情報センター おかえりなさい かぐや姫



常設会場 小町百年の恋



を開催。館内いっぱいのお客様に落語を楽しんでいただきました。また、今年に入っ

てから、会議室を使用するギャラリーの利用が大幅に増え、さまざまな方の成果を発表する場として活躍しています。直接対話をする場としての情報センターと、インターネットやラヂオの発信地となる情報センターを両輪として、できるだけ多くの人とキズナを紡いでいきます。

## レンガを積むものに

レンガを積んでいる職人が二人並んでいた。一人の職人に「何をしているの?」と聞くと「みりやわかるだろ、レンガを積んでいるのさ」と。そこで、もう一人の職人に同じ質問をすると、その職人は、「教会を作っているのさ」と。どちらの職人が早くレンガを積み上げたかは、なんとなく想像がつくところではなからうか?

情報センターは、器用、貧乏、知恵と根性、これだけあれば、なんとかなる。(ホントかなあ)でも、自分たちの建てているものか何になるのか、時々離れて眺めることも忘れずに。(C)

## まちかど情報センター これからの予定

### ◆デジカメ教室作品展

7月11日(月)～7月17日(日)まで

### ◆荻原 寛 美人画展「おんな…髪」

8月29日(月)～

●ギャラリーはどなたでも無料でご利用できます。利用希望の方は、スタッフにお問い合わせください。

- ★『たんぽぽ』折り紙教室 第4土曜日 午後1時半～
- ★ちりめん小物作り 第一、第三土曜日 午後1時～
- ★『わんにゃんキッズ』育児サークル 毎週火曜日 午前10時半～
- ★心と体の健康相談 毎週水曜日 10時～4時
- ★日本語教室 毎週金曜日 10時～12時
- ★まちかど学習会 2か月に一度

- ◆毎月第サン・ド(3土)曜日は、サンド市の店のワゴンセール、フリーマーケット、手作り品の販売、Kマルシェ、お野菜・草花、アイデア募集!
- ◆パズール(毎月第一水曜日)好評開催中!

### ■『いしおか七夕まつり』

7月30日(土) 午後3時～8時まで

場所 駅前御幸通り歩行者天国  
情報センター前では、恒例路上ライブを行います  
詳しくは、いしおか七夕まつりのチラシ、ポスターをご覧ください。

### ■夏休みまちかど企画

「帰ってきたお化け屋敷」  
7月30日(土) 8月17日(水)  
どんなことがまちかどで起こるかな?

### ■街かど寄席は、偶数月の第4日曜日

午後2時から3時 木戸銭500円 次回8月28日

### 第8回 ルネッ散歩 8月21日(日) 15時出発

「震が浦にうかぶ夕日の筑波山を歩く  
だいだらぼうに会いに行こう」参加費500円  
●ルネッ散歩は2か月に一度企画しています。

歯科医師会連続講演第3回 9月3日(土) 午後1時